

熊本から第2報です。

今日は聖日、ルーテル神水教会に出席し、礼拝を守る。

その後、熊本の後3つのルーテル教会、室園教会、大江教会、熊本教会を回り、被災状況を伺い、今何が必要かなどを伺う。午後は中央YMCA本部に戻り来客の対応、会議に出席。

1. 教会員の方々は家財、家など被害大なり小なり受けている。教会堂は熊本教会が壁などがはがれ、また亀裂が入る被害を受け、5教会の中では一番被害が大きいが、一部修理で今後も利用可能のようだ。
2. ルーテル室園教会員でJCMA会員の俵哲医師に教会でお会いし、お話を伺う。自宅の家財道具はかなり壊れた。在宅医療を現在しているが、患者で亡くなられたり、受傷した方はおられない。市内の診療所もかなり開いてきた。現在特に必要なものは無い。
3. 石田 Dr. と電話でお話をする。家族とも元気。家の中はかなり損傷し、転居を考えている。今特に必要なものは無い。弟子丸先生、坂本宣子看護師は電話での応答なし。他の方の情報から元気であられるようだ。
4. ルーテル大江教会で阿蘇在住のYMCA職員、久保さんにお会いし、お話を伺う。今一番の問題は感染症の発症。医療人も十分いないとのこと。避難所は大小合わせ、20か所近く、5千人ほど。明日阿蘇に伺い、実態を把握し、阿蘇に今以上の医療人の常駐が必要であるかどうか検討する。
5. 震災支援の仕事の拡充に伴い、人、モノ、お金、情報の出入りが予想される。それに対し熊本YMCA災害対策本部としても職員の役割分担を明確にし、一部署に複数で当たるように。

明日午前、阿蘇視察予定。

檜戸健次郎、熊本、24日